



健康増進へ意識新た

みち銀で弘大COI啓発型健診

骨密度 行員ら8項目測定

みちのく銀行は28日、青森市の本店で、弘前大学COIの啓発型健診を行った。参加した行員は野菜摂取量や骨密度など8項目を測定し、健康増進に

みちのく銀行で行われた弘前大学COIの啓発型健診。啓発型健診では、病気の予防の観点から、口

向の意識を新たにしました。啓発型健診では、病気の予防の観点から、口コミタイプシンドロームやメンタルヘルスなどを測定し、健康意識の向上を図る。同行は今年度新たに取り入れた。

勤務の約200人。30日までの3日間行い、定期健診終了後に30歳以上の希望者が受診する。7月ごろに測定結果について説明会を開き、9月以降、月1回のフォローアップを行う。

28日は皮膚検査で野菜摂取量を測定したほか、弘大COIに青銀も参画へ。秋にも実施。青森銀行(成田晋頭)は28日、弘前大学COIへの参画を決めた。

た。発表した。同行職員を対象に、同大が普及に取り組み「啓発型健診」を実施し、データを大学側に提供する。とともに、職員の健康意識の向上を図る。

啓発型健診の実施は秋ごろを予定している。同行は2014年2月に「あおぎん健康宣言」を実施。働き盛りの世代の食生活改善に取り組む「花王スマート和食プログラム」など職員の健康増進に積極的に取り組んでおり、

りして、定期健診だけでは把握しきれない自身の健康状態について理解を深めた。受診した地域創生部の鶴岡真治さん(60)は「平均値との違いを知って改善できることは改善し、長生きにつなげたい」と語った。

(油川修一)

同行人事部の担当者は「健康に関する知識を得ることで自分から変えようという意識を持つてもらいたい」と話した。今後、弘大側とも相談し、本店の職員を中心に対象者の範囲などを決める考え。

(今井珠世)